



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑭ 認知症 (1) 認知症とは

京都府南丹保健所長 時田 和彦

今回から数回、認知症について書きます。認知症とは、種々の原因により脳の認知機能が低下し、日常生活に支障が出る疾患です。2025年には65才以上の高齢者のうち5人に1人が認知症になると言われ(厚労省)、65才未満の若年性にもみられます(若年性認知症)。

認知症になる前に、軽度認知障害(MCI: Mild Cognitive Impairment)という、記憶力などが低下し、認知症と正常の中間的な段階で見つかる患者さんもいます。認知症になると、(1)中核症状と、(2)行動・心理症状(BPSD: Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)が出現します。

(1) 中核症状	(2) 行動・心理症状(BPSD)
①物忘れ、②時間や場所がわからない、③理解力・判断力が低下する、④仕事や身の回りのことが出来ない	うつ状態、不安や焦燥、怒りっぽい、幻視、もの盗られ妄想、徘徊など

ここでしばしば問題となるのが、上記①の物忘れです。認知症でなくても、物忘れを気にしている人は多いと思います。内科外来で物忘れを主訴に来院した患者さんに、昨夜の食事内容を質問すると、認知症ではない場合と認知症では、以下のような違いが出ます。

認知症ではない物忘れ	認知症による物忘れ
昨日夕食のおかずを忘れても 次回の外来では覚えて来て 自分は忘れっぽいとの自覚があり メモを取るなどして対応し 日常生活に困ることは少なく 物忘れはほとんど進行しない	昨夜食事したこと自体を忘れ 次回の外来でも同様に 物忘れの自覚がなく メモしても見当たらなければ盗られたと言い 日常生活に支障が出て 物忘れは次第に進行する

認知症の治療薬も数種類あります。認知症を疑うご家族がいる場合は、早めに専門外来を受診させていただきます。